

Ⅱ. 事業の概要

法人

(理事会機能の充実)

毎年、厳しく変化する私立学校を取り巻く環境に適切に対応し、様々な課題に対して主体的、機動的に対応していくため以下の課題を設定し、検討並びに実施することを計画しました。

- ① ガバナンスについて
- ② 実効性のある中長期計画の策定
- ③ 部門ごとの経営（運営）委員会の充実

1) ガバナンスについて

本学園のガバナンスの在り方を探求するための一環として役員、評議員及び事務局員を対象に次の研修会を実施しました。

○2011年2月25日（金）日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターの瓜生 定雄氏を招いて研修会を実施しました。最近の全国的な進学傾向や特色ある学校の事例報告を解説し、その後、質疑応答が行われました。

2) 実効性のある中期計画の策定

保育園から大学まで5部門の財務を中心とした5ヶ年(2011～2015年度)中期計画書を作成し、3月2日の臨時理事会及び3月25日開催の評議員会において承認されました。

学園総合グラウンド建設や大学4号館建設等の大規模事業は、この計画に基づいて進捗しており、また、財務シュミレーションによる向う5ヶ年の財政状況も把握できます。

3) 部門ごとの経営会議（委員会）の充実

「中学・高校財政問題改革委員会」、「幼稚園企画運営会議」、「保育園企画運営会議」が機能しています。いずれの委員会も理事長が議長となり、それぞれの部門の役職者と本部事務局職員が委員となって諸課題に対応しています。園児・生徒の確保、財政の安定及び施設設備の充実などに一定の成果を上げています。

(学園総合グラウンドの建設)

土地収用法を適用させての用地取得であることから、前年度より継続して群馬県土地整備部用地課の指導を受け、事業認定申請書を6月14日に提出しました。この認定が7月16日に行われ、引続き協議の確認を9月17日に申請し、用地取得のための諸手続を終了させました。また、並行して建設業者の選定を行い、8社による競争見積の結果、9月の理事会において池下工業㈱に決定しました。

定礎式を10月30日に挙行し、11月より本格的な工事に入りました。この時点での竣工予定は4月末でしたが、天候に恵まれたこともあって工程表以上に進捗させることができ、3月22日に管理棟の完成検査を受けて、グラウンド及び管理棟の使用を4月より開始しました。

学園総合グラウンド施設概要は次のとおりです。

- ・ 敷地面積：33,344 m²（約1万坪）
- ・ サッカー場1面（人工芝仕上げ）
- ・ 400mトラック（全天候型ウレタン塗装仕上げ）
- ・ フットサル場1面（人工芝仕上げ）
- ・ 管理棟（152 m²） 当面、ミーティングルームは学童クラブの施設として使用
- ・ 駐車場（73台収容）
- ・ 夜間照明灯9基

（学童クラブの設立準備）

地域や前橋市からの要請を受けて、学童クラブの2011年度開設に向けて設立準備を行いました。

問題は施設をいずれかの場所に確保することでしたが、学園内外の各方面に打診したものの、いずれも難しく、結局、新設の総合グラウンド管理棟（ミーティングルーム）を暫定的に使用することで落ち着きました。なお、初代の所長には坂庭よし江氏が就任しました。

（本部付け労務職員の採用）

本部付けの労務職員を1名採用しました。主に幼稚園園児送迎用マイクロバスの運転、大学防犯対策用マイクロバスの運転（通年で夕刻のみ駒形駅まで送り）のほか、その他の労務的業務を担当し、2011年度からは総合グラウンドの管理も担当します。

大 学

（入学の状況）

特待生制度や奨学金の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開などにより、定員以上の学生を確保することができました。

2010年度 コース別入学概況（入学定員200名、編入学定員20名）

	国際社会専攻				地域児童 教育専攻	計
	英 語	国 際	情報経営	人間文化		
応募者	187 (2)	90 (4)	128 (3)	98 (2)	67 (0)	570 (11)
合格者	126 (1)	49 (2)	83 (2)	67 (1)	51 (0)	376 (6)
入学者	102 (0)	35 (2)	75 (2)	50 (1)	33 (0)	296 (5)

（ ）内数値は編入学の内数

（専任教員人事）

2009年度末に教授1名（国際環境）、特任教授1名（数学）及び准教授1名（音楽）が退任し、2010年度より特任教授1名（理科）並びに助教1名（英語）を新規採用しました。この結果、専任教員は1名減の33名になりました。

(専任職員人事)

G P補助金による臨時職員の増員はありましたが、専任職員の就退任は特にありませんでした。

(4号館建設の設計士選定と進捗)

大学4号館建設については、前年度に大学内及び理事会で検討した結果、必要性が高いこともあり前向きに進めることが確認され、2010年度は設計士の選定とその準備に追われました。

設計士の選定は、共愛学園では初めての試みとなるプロポーザル方式によって選定することが確認され、群馬県や他大学の専門家の意見を仰ぎつつ審査委員の選定から始まりました。

審査委員5名は、倉田 正直氏（工学院大学教授）、千葉 学氏（東京大学准教授）、平倉 直子氏（平倉設計事務所長（東京大学非常勤講師））の就任承諾を得ることができ、学内委員として平田 郁美学長と須田洋一事務局長とが承認されました。委員長は倉田正直氏にお願いしました。

審査委員会の選定方針に基づき公募を行ったところ、事前の登録者463件、実際の図書提出者は321件でした。提出された図書について審査した結果、同委員会において、(有) 乾久美子建築設計事務所を候補とすることが確認され、最終的に理事会において決定しました。

その後は、(有) 乾久美子建築設計事務所と学内の4号館建設特別委員会及びキャンパスデザイン委員会メンバーとの打ち合わせ会を原則週1回ペースで開き、基本設計図から実施設計図までを年度末までに完成させることができ、建設業者を選定し、新年度当初の着工を残すところまで進捗させることができました。

(特待生を含む奨学金の改定)

増大する一方の資格特待生を含む奨学金制度を抑制するため、財政問題改革委員会（委員長 平田郁美学長）において本格的な検討を行いました。その結果、次の改定案をもって2012年度より実施することの合意が得られました。

- 2012年度より、資格特待は1年次のみ限定する。（これまでは基本的に4年間対象）
- 資格特待の学年進行に伴って生じる原資を基に次の新奨学金制度を設ける。
 - a 経済的困難奨学金：経済的困難による学生に対する支援
 - b 学業等優秀奨学金：学業等優秀な学生に対する奨学金
 - c ワークスタディ奨学金：テーチングアシスタントなどの勤労に対する奨学金
 - d 優れた企画補助奨学金：学生によるボランティア企画等の負担に対する奨学金
 - e 優れたプロジェクト補助奨学金：学生社長等のプロジェクトに対する奨学金

(入学定員増の申請)

過去8年間における学生確保は毎年定員を超過し順調に推移しています。このため2011年度からの入学定員を25名増やして225名とし、編入学は実績を考慮して15名減の5名として文科省へ申請し認可されました。

(iPod Touch 導入について)

PC不足の解消やペーパーレス化を推進するため、iPod Touch を大学予算において取得し全学生及び教職員へ配布しました。加えて学内のユビキタス化を図ることにより、学内外の情報を引き出すことが容易になり利便性は一段と向上しました。

小規模大学の特徴を生かした全国初の取り組みとあって、多くの全国的メディアにおいて紹介されました。

(借用地の一部取得)

前橋市からの借用地（グラウンド）一部 1,350 m²（409 坪）を 3,267 万円で取得しました。

これにより前橋市からの借用地は残り 7,299 m²（2,212 坪）となり、現在の鑑定価格で試算すると約 1 億 7,635 万円となります。

(施設・設備等の充実)

①2 号館女子トイレの改修

3 階女子トイレを年次計画に基づき全面的な改修工事を行いました。

②食堂の拡張と喫煙室の設置

学生増に対応した混雑を緩和させるため、食堂東側に隣接して設けられていた喫煙室を改修し、新たにテーブルと椅子を購入して 50 席増やしました。また、これに伴いプレハブ仕様の喫煙室を屋外へ新たに設けました。

(進路の状況)

・2010 年度卒業生の進路状況は次のとおりです。

就職者	140 名
就職未定者	17
その他	25
進学者	5
計	187

就職率 90.5% (124/137)

・就職者の業種別進路と主な企業は次のとおりです。

業種	人数	業種	人数
サービス業	65 名	自営業	2
出版・印刷業	0	商社	8
官公庁	5	情報通信業	11
教職員	7	製造業	8
金融業	4	流通・小売業	33
建設業	1	計	140 名

高 校

(人事について)

2010年度は、1名の教諭の定年退職及び1名の専任講師の非常勤講師への任用替があったため、非常勤講師1名を専任講師へ昇格させたほか、中学校所属の教諭1名を高校へ異動させたことにより対応しました。さらに3名の専任講師を教諭へ昇格させたほか、数名の非常勤講師の入れ替え(退職と採用)を行いました。

・教 員

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2007	46	12	1	59	22
2008	46	12	1	59	21
2009	43	15	1	59	23
2010	46	12	1	59	24

・職 員

年度	専任職員	パート職員	派遣職員	計
2007	5	1	4	10
2008	6		4	10
2009	6		4	10
2010	6	1	3	10

※ 派遣職員1名を直接パート雇用(6月～)。

(生徒確保と入学の状況)

2010年度より普通科を英語科と同じく特進コース及び進学コースの2コースに改編し、学力の向上やスポーツ等優秀者の育成に努めました。普通科の改編や特別奨学生選抜入試(特別奨学生制度)について、より一層関係者に熟知されるよう教職員が分担して県内中学校の訪問や、入試広報室を中心とした県内進学塾訪問を行ったこともあり、定員(360名)を大きく上回る384名の入学者を確保することができました。

入学概況

	普通科		英語科		計
	特進コース	進学コース	特進コース	進学コース	
定員	230名		130名		360名
応募者	1120(54)		357(33)		1477(87)
合格者	241(12)	758(42)	170(8)	172(25)	1341(87)
入学者	28(12)	237(42)	36(8)	83(25)	384(87)

※ カッコ内は共愛中学出身者の内数

(特別奨学生（特待生）制度の充実)

すべての入試に特別奨学生制度が適用されることを周知し、学業優秀者・スポーツ等優秀者の両面から意欲のある生徒を確保し、より活力のある学校づくりを行いました。なお、特別奨学生（特待生）は定期的（学年末）に学業成績や部活動の様子など継続審査が行われ、年度の途中や年度末に資格を失う場合もあります。2010年度入試より「特待生」から「特別奨学生」へと名称変更し、ランクの刻みもこれまでの3ランクから5ランクへ変更しました。

内容は次のとおりです。

- ・ 特別奨学生S — 入学時の入学金・施設費及び毎月の授業料・施設維持費を全額免除
- ・ 特別奨学生A — 入学時の入学金と毎月の授業料を全額免除
- ・ 特別奨学生B — 入学時の入学金と毎月の授業料を半額免除
- ・ 特別奨学生C — 入学金及び授業料の半額を免除
- ・ 特別奨学生D — 入学金の半額を免除

過去5年間の特別奨学生（特待生）の入学実績は下記のとおりです。

	特別奨学生S		特別奨学生A		特別奨学生B		特別奨学生C		特別奨学生D		計
	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	
2006年度	0	0	6	11	10	5					32
2007年度	0	0	10	11	8	6					35
2008年度	0	0	6	6	10	9					31
2009年度	0	0	5	11	10	13					39
2010年度	0	0	5	12	3		5	18			43

※2010年度より学業特別奨学生はSからDまで、スポーツ等特別奨学生はAまたはCのランク付けとしました。

(進路の状況)

上級学校への進学志向は強く、卒業生のうち4年制大学進学者が61%、短大進学者9%、専門学校進学者18%となっており、2009年度と比較すると4年生大学進学者が2ポイント増、短大が1ポイント減、専門学校も3ポイント減少しています。今後も、国公立大学や難関私立大学への合格者数を増やすこと（出口）が、生徒の確保（入口）に繋がるため、一層学習指導や進路指導に力を入れていきます。

区分	人数	区分	人数
大学	184名 (61%)	留学予定	4名
短大	27名 (9%)	就職	9名
専門学校	55名	浪人・その他	24名
		計	303名

(施設・設備の充実)

① 教務システムの導入

2000年に導入した教務システムの2010年度以降の保守が不可能となったため、アルプ(株)より新たな教務システムを導入しました。まだ、試行錯誤しながらの運用ですが、今後も連絡を密に取りながらシステムの安定化を図っていきます。

② ベルタワーの外壁洗浄・コーティング塗装の実施

夏期休業期間中に、雨だれや埃の影響により黒ずみ汚れが顕著になった、ベルタワーの外壁洗浄・コーティング塗装を実施しました。

③ 旧アメリカン・ボード宣教師館外壁舗装・建具調整等工事の実施

解体移築後10年が経過し、経年劣化が認められる宣教師館について、県・市からの補助(工事費の9割、共愛学園1割)を受け、主に外壁等の塗装及び建具の調整を中心とした工事を実施しました。

④ 小礼拝堂のオルガン入れ替え

設置後35年が経過し、使用に際して不具合が生じている小礼拝堂のクロダトーンにかえて、横浜オルガン工房に電子オルガンの製作、設置を依頼しました。

中 学

(入学の状況)

早期の校外入学説明会、中学校職員の小学校訪問を行った結果、前年(入学者87名)より7名多い94名の入学者を確保することができました。

入学概況(入学定員100名)

	第1回入試		第2回	第3回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	54	40	19	13	126
合格者	54	27	14	9	98
入学者	54	21	11	8	94

(人事について)

2010年度は、教諭1名の定年退職及び教諭1名の高校への異動により、専任講師2名の採用を行ったため、人員数の変更はありませんでした。

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2007	9	4	1	14	6
2008	9	4	1	14	6
2009	9	4	1	14	6
2010	9	4	1	14	6

(進路の状況)

卒業生数 90 名中、共愛学園高校に内部進学した生徒は 79 名、他校（高校、専門学校）への進学を希望した生徒は 11 名でした。尚、共愛高校への内部推薦基準を充足しない生徒は 0 名でした。

年度	卒業生数	内部進学者数	外部進学者数						
			県内公立	県内私立	県外公立	県外私立	海外留学	その他	計
2006	77	62	9	3	0	2	0	1	15
2007	73	65	4	3	1	0	0	0	8
2008	84	72	4	3	0	4	1	0	12
2009	102	87	1	8	0	5	0	1	15
2010	90	79	5		0	5	0	1	11

幼稚園

(教員の増員)

1 クラス増となったことから常勤講師を 1 名増員採用しました。
これにより常勤の教員は 6 名から 7 名体制（園長含む）になりました。

(園児募集)

園児募集を強化するためHPを中心に、広報関係の強化を図りました。

移転して 5 回目の園児募集になります。
年度当初の入園児及び園児数は次のとおりです。

	入園児	在園児
3 歳児	25 名	25 名
4 歳児	2	37
5 歳児	0	14
	27	76

(課外活動)

引き続き課外活動を実施しました。申込者等の概要は次のとおりです。

	英会話クラブ	絵画造形クラブ	サッカー・ 体操教室	児童英語クラブ
申込者数	約 20 名	21 名	41 名	11 名
講師	本大学講師	本大学教員	本大学学生	本学教員・学生
開催日数	8 日	5 日	22 日	6 日

※ 体操教室は 2009 年度より開始

(施設・設備の充実)

①園児送迎用マイクロバスの取得

これまでマイクロバス1台(44人乗り)と普通バス1台(14人乗り)を運行していましたが、伊勢崎方面の利用者増に応え利便性の向上を図るため、賛助会からの寄贈によりマイクロバス1台(44人乗り)を増車しました。

1台500万円の財源については、すべて賛助会負担とすることが確認され、2011年度以降の賛助会年次計画において予算処置することが承認されています。

保 育 園

(乳児保育、一時保育、体調不良児保育の実施)

前橋市より2009年度に移管されましたが、そのときの移管条件である乳児保育、一時保育、体調不良児保育を開始しました。

乳児保育は当初3名でスタートしましたが、徐々に増えて1月には9名となりました。一時保育は年度当初少なかったものの徐々に知られるところとなり、月間25名～30名となって、年間実績は257名です。体調不良児保育は月間で100件弱あり、年間ではかなりの件数を扱っています。また、看護師は園児のほか、職員の健康や安全対策にも取り組んでいます。

(保育士の増員)

前記の実施に伴い、常勤的非常勤講師を5名増員して26名体制としたほか、パート看護師を2名新規採用しました。

(園児数)

開園2年目当初の園児数は次のとおりです(定員120名)。

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
3名	14名	16名	24名	30名	28名	115名